

生活の中の
仏教語

ぼんのう やぶ ほうぐ 煩惱を破る法具

ほっと通信編集委員 石井祐晃



人は書き記すためにペンを使い、缶詰を空けるために缶切りを使います。人間は、目的を果たすために道具を使ってきましたが、僧侶も例外ではありません。悟りに至るという目的を果たすために、道具が活用されましたが、それらは「仏具」や「法具」と呼ばれます。そして密教では、煩惱を破るための仏具が存在し、それは「金剛杵こんごうしよ」と呼ばれるものです。これは実際に葬儀でも用いられており、密教僧にはとても重要な意味を持つ仏具です。

金剛杵は棒状で、両端には槍状の刃が数本付いています。まるで武器のような見た目ですが、それもそのはず、金剛杵のルーツは、インド神話に登場する武器にあります。その武器は、あらゆるものを破壊する力がありました。あらゆるものが破壊できるのなら、煩惱さえも破壊できてもおかしくない。そこで、インドで成立した密教は、その武器を取り入れ、煩惱を破壊する法具として儀礼に用いました。それが金剛杵です。よく見てみると、金剛杵の刃の先は内側に向いています。ここに、外敵を倒すためではなく、心の内にある煩惱を破るために用いるのだ、という意図が隠れています。

金剛杵の切っ先の本数は、様々なバリエーションがあります。五本のもの、三本のもの、一本のものもあり、それぞれ名前を「五鈷杵ごこしよ」「三鈷杵さんこしよ」「独鈷杵とっこしよ」と呼びます。もちろん適当に本数を決めたわけではありません。この切っ先にも意味が込められています。密教で最も大切な仏は、大日如来という仏様です。大日如来の持つ智慧があれば、苦しみのもとである煩惱を克服することができるので、仏の智慧を獲得しようと僧侶は精進するの

ですが、獲得すべき大日如来の智慧は五つあります。鋭い方は、お気づきでしょう。切っ先が五本ある五鈷杵の刃には、大日如来が持つ五つの智慧がそれぞれ配されます。煩悩を打ち砕く道具の先端には、煩悩を克服する仏の智慧が宿っている。修行に励む密教僧が金剛杵を大事にする理由が理解できるのではないのでしょうか。

葬儀では何をやっているか分からない、という声をよく聞きます。確かに意味不明な言動ばかりかもしれませんが、金剛杵ひとつとって分かるように、決して無意味ではないのです。葬儀には、故人が成仏できるよう、先人たちが命を賭して受け継いできた、教えや隠された意味がたくさん込められています。

(9 5 4 字) (福島県伊達市 真言宗豊山派 円福寺住職)
